

# C-38 腕の自由垂下時の曲りに適用する袖の整形の方針

戸板女短大 智取智恵子

—フレンチスリーブについて—

目的 フレンチスリーブは、袖山中心線が腕の形に適用して袖の形状を作成したときに着心地よく美観を呈する。製図方法にもよるが、フレンチスリーブの出来よりの美的位置づけは、現在まで感覚的、経験的に扱われており、その基準になるものを特に取り上げていない。今回はこの状態を着用する人の自由垂下時の曲りに対応した最適彎曲を得るため、その方法を検討した。そして前袖と後袖との全長の差と袖の彎曲度との関係について明らかにし、図表化した。

方法 前方屈曲をもつている腕は、その測定を写真撮影によって行った。その結果体型差はかぎりあつたが、約 $14^\circ$ の屈曲を表した。次に標準体型での製図を行い、この場合袖山中心線の角度を $45^\circ$ とし、最もやわらかく腕に追随する状態にした。又前袖と後袖の全長の差を4段階とし、作成したものを写真撮影を行い測定し、検討した。

結果 約 $14^\circ$ の腕の脱力時の曲りに対する袖の最適彎曲度を求めると $5^\circ \sim 8^\circ$ 程度で腕の曲り角度の約半で美観上好適な仕上りが得られた。この最適彎曲と前袖と後袖の全長の差との関係が、布地の性質によってどの程度の影響を受けるかを検討した。この結果得られる彎曲と差長の関係は、布地の性質によらずほぼ一定の関係を保ち、殆どの布地に共通に適用できる関係図表を作成することが出来た。これにより着用する人の腕の自由垂下時の曲りに対応した最適仕上り彎曲を得るための、前袖と後袖の差長を見出すことができる。